

# 5.30 三里塚現地斗争

## 飛行阻止、二期工事実施阻止

釜ヶ崎解放

1980.5.28

釜ヶ崎日雇

労竹組合

働く仲間のみなさん

来たるる月30日、三里塚において、

「5.30三里塚労働全日総決起集会」が行なわれます。

行なわれます。

釜日労は、代表派遣で現地斗争に決意

し、山谷・寿、座敷の仲間とともに、全

日雇共闘の隊列で斗争決意です。

三里塚の斗争は、5年間にわたる三

里塚農民の不屈の斗争と、労竹会、人民

の血と怒りで、70年代の日本労働斗争を

大きく切り開いてきました。

これまで、政府―支配階級は、斗争三

里塚に対し、「成田新法」「大量の

機動隊による戒厳体制など、あらゆるかぎ

りの暴力弾圧とれたは投入により、強行

南進を行なってきました。そして、強ま

二期工区の強行着工をもくろんでいます。

昨年の、反対同盟に対する、話し合い

攻撃が、農民の固い結束で粉砕されるや

否や、「空考周也農業振興策」・「成田甲木」などの懐柔と  
桐場文恵によって、農民の生活の基盤をうばいやり、農業解  
体を押しすすめてきています。

その理由は、日本の支配階級が、二の間の高まる帝口主義  
戦争の中で、日米安保体制をうしろ盾として、自衛隊・軍  
備を増強し、朝鮮、アジア侵略に向けた戦争準備を急いであ  
げり、そのための三里塚空考を向が向でも完成させよつと必死  
になつてゐるからです。

二の、政府―支配階級の攻伐と弾圧に対して、全田の労働  
者・工場拠点・学生・さらに、「障害者」をはじめとする被  
差別大家が三里塚の斗いに結合し、たちあがり、斗いを発展  
させています。

まさに、三里塚の斗いは、日本階級斗争の総本山として、  
労働者にとっては、資本と国家権力の鎖から、自らを解放す  
ることをめざす決戦場として、重要な斗いとなっています。  
仲間たちも、三里塚の斗いを釜ヶ崎の斗いと固く結合さ  
せ、三里塚農民の斗いを農業を発展させ、侵略戦争の野望をう  
ちくたき、二期工事着工を阻止するため、釜ヶ崎からたちあ  
がらつ。

三里塚侵略空考粉碎  
二期工事着工実力阻止